

トピックスⅡ

第二期麻疹風疹ワクチン接種率の低迷 ～2006年度第2期麻疹・風疹ワクチン接種に関する全国調査 ～2006年10月1日現在中間評価～(IASR Vol.28 p 85-86 : 2007年3月号) <http://idsc.nih.gov.jp/iasr/28/325/pr3252.html> より抜粋～

2006年4月1日施行の予防接種に関する政省令の一部改正により麻疹風疹混合ワクチン（以下、MRワクチン）を用いた定期接種が可能となり、同年6月2日から、わが国においてもようやく麻疹および風疹ワクチンの2回接種が定期接種に導入、開始された。接種対象者は、第1期が1歳児、第2期が5歳以上7歳未満で小学校就学前の1年間にあたるものとされた。しかし一方で、2回接種法開始の初年度であるということ、年度内の数回にわたる予防接種に関する政省令の一部改正に伴い、医療や行政の現場において混乱が生じている可能性があることなどから、第2期の接種率の低迷が予想された。

2006年10月1日現在の第2期対象者における麻疹を含むワクチンの接種率〔(第2期MRワクチン接種者数+第2期麻疹単抗原ワクチン接種者数) / 2007年度小学校入学予定人口〕は29.4%、同様に風疹を含むワクチンの接種率〔(第2期MRワクチン接種者数+第2期風疹単抗原ワクチン接種者数) / 2007年度小学校入学予定人口〕は29.9%であった。接種したワクチンの種類を見ると、麻疹を含むワクチン接種者数のうち、MRワクチンが99.6%、麻疹単抗原ワクチンが0.4%、風疹を含むワクチン接種者のうち、MRワクチンが97.8%、風疹単抗原ワクチンが2.2%を占めていた。2006年10月1日現在の都道府県別の接種率を第2期MRワクチン接種率が高い順にみると、最も高かったのは徳島県（第2期MRワクチン接種率：42.2%）で、最も低かったのは沖縄県（第2期MRワクチン接種率：12.1%）であった。

2006年10月1日までに対象者に何らかの「お知らせ」をした市町村（特別区）は1,398（95.4%）、

しなかった市町村は68（4.6%）であった。周知したと回答のあった市町村（特別区）における麻疹を含むワクチンの第2期接種率は29.8%、風疹を含むワクチンの第2期接種率は30.3%であったのに対し、周知をしなかったと回答した市町村（特別区）における麻疹を含むワクチンの第2期接種率は13.6%、風疹を含むワクチンの第2期接種率は14.7%であった。周知方法として、83.2%の市町村（特別区）が個別通知を行っていた。

以上の結果から、2006年10月1日現在の第2期麻疹・風疹ワクチンの接種率は全国的に非常に低く、2回接種開始初年度の接種率は、積極的な接種勧奨を実施しなければ、低いまま次年度を迎えることが懸念された。2007年3月31日までに、全国的な接種率向上に向けたさらなる取り組みが必要と考えられる。医療従事者や保護者への接種制度の改正に関する情報提供はもちろんのこと、2回接種の必要性に関する知識の普及も「小学校入学前には麻疹と風疹の予防接種を受けに行く」という行動を促す上で、非常に重要であると考えられる。さらに、接種率向上に向けた周知方法の再検討と2007年3月31日までにできる限り一人ひとりに情報が届くようなきめ細やかな対応、およびそれを可能にする予算ならびに接種体制の確保が必要と考える。

最後に、本調査にご協力いただいた市町村（特別区）の関係者の皆様にお礼を申し上げますとともに、2007年5月に予定している最終評価のための調査にも是非ご協力いただければ幸甚である。